- ② C. Gelbke, Volksdichte des Mansfelder See-u. Saalkreises, Dses. Halle, 1887.
- ② 鹿野忠雄 臺灣原住民族の人口密度並に高度分布に關する調査 地評 第XIV卷
- ③ N. Krebs, Die verteieung d. Bevölkerung Süddeutsch- lands a. geograph. Einheiten. Ztschr. d. G. f. E. z. Berlin 1923.
- ③ L. Assmann, Die Volksdichte in der kulturgeographische Einheiten der deutschen Mittelgebirgsschwelle. Diss Berlin 1930.
- ③ H. Fickert, Die Besölderungsdichtigkeit der Rheinprovinz. Diss. Halle 1919. u. P. M. 1920.
- ③ Ravn. Statistik Tabelvaerk. udg. of det Statist. Burean. N. R. XII. Kopenhagen 1857*
- ③ Fr. Ratzel, Anthropogeographie Bd. II.
- ③ E. Behm H. Wagner, Dichtigk. d. Bev. in Vorderindten (D. Bev. d. Erde IV. P. M. Ergbd XI. Hft42)
- ③ K. Closterhalten. Die Kartographische Darstellung der Volksdichte. P. M. 1912.
- ③ E. v. Romer, Geographische-statistische Atlas von Polen Warschau 1916*
- ③ M. Eckert, Lit③
- ③ Fr. Leyden. Lit③
- ④ W. Witt. Lit⑦

(京都大學文學部教授)

尾張國丹陽村の土地割^①

鏡 味 完 二

1. 序

尾張國丹陽村は名古屋市の北々西約8軒に位置し、殆んど純農村である。此の附近は大体に於て畑の多い地域であるが、田も諸所に交錯していて、複雑な景觀を呈している。1:25000 程度の地図では現われ得ない耕地の分布が此の地方には多く存在し、

① 本稿は昭和27年5月、日本地理學會學術大會で發表したものに増補訂正したものである。

②
 曾て筆者らが尾張の蔬菜畑を調査した際に空中写真で見出した様な特殊な耕地の配列がある。それは第2図に示した如く、稻田の中に短冊形の畑が分布するのを見るが、このモザイク形態は更によく観ると、方形に区劃され乍ら、同一方形中では一様の方向をとつた畑が分布し、全体として美しい市松模様を描いているのである。この特色ある耕作景の分布する地域の土地割を中心として、以下にその研究した結果を述べようと思う。此の研究に対して御教示を頂いた米倉学士、及び此の地方の調査に当つて本村住人である若い地理学者呉友岩田利雄氏よりの直接教示並に実測の労に対して謝意を表し、併せて度々参上した際に御世話になつた当村助役鶴飼良雄氏外役場の方々、耕地の現場で御親切になつた耕作者に対しても衷心御礼を申上げる。

2. 地 形

此の地域の地形は犬山扇状地の末端に形成された旧木曾川の屢々変動した河筋に添つて運ばれた土砂の堆積によつて成立している。本村の中部以南の畑の多い地方は、

此の堆積の著るしかつた

ところで、河床面よりは

数米の高い位置にある。

この丘阜状の畑地は尾張

大根の本場であるが、こ

れから記そうとする土地

第 1 圖

割が存在するのは、本村の北部である。この北部、正確にいえば東北部に当る地域の地形は、上述の堆積の盛んに行われた、現在の畑の集積地域の上方に相当し、犬山扇状地との中間地域に位している。(第1図) それ故に排水の良くない地域であり、霖雨の際には或る期間の滯水を見ることがある。斯様な土地の性質をもつ一方、灌漑にも不便な事情にあり、農業経営上幾多の苦勞の存する地域であつた。それは犬山扇状地の下方にあるから灌漑はその泉水を利用すれば容易であるように思われるが、犬山扇状地は小さい河流で形成されたファンとは異り、木曾川という我が国数の大川の流下によつて形成されたために、ファン及び上述の堆積地域を通じて旧木曾川の河床が深い谷を成し、ファンよりの泉水は多くこの谷に入つて了うからである。

② 稻山・鏡味：尾張の蔬菜畑，地評 12巻3號 1936

3. 耕地の形態の發生

上述した様な市松模様の耕地の形態は、その区劃の大單位が凡そ1町四方の大いさになつてゐることと、村史または村民の記憶にはこの区劃の行われた事蹟が全然伝はつていないことから、この土地割は大化の条里制施行時にはじめて行われたものといふのであらう。またこの条里制の施行以前から、此の耕地の形態が成立してゐたのでないことに就いては、方1町の区劃内では整然と同一方向に短冊形の畑が配列してゐる事実から証言出来ることである。即ち若しそうでないとすれば、各区劃は斜行して一区劃以上に連る畑地が存在せねばならない筈であるのに、その様な形態は存在していない。またかの条里制施行時には、道路、水路のみが決定されて、以後々世に及んで短冊形の畑地（この地方で島畑 Shima-bata という。以後これに従う）が条里区劃の中に造られたという考え方も起る訳であるが、此の土地のこれ程の畑地の形態を決定するという事業は、道路、水路、畦畔などを整理するに劣らぬ大仕事であるに違いないから、大化の時代のような国家的に強行政策が特別に遂行されたことがない限り不可能事である。大宝令には田畑の形をも地方民の勝手に変更することを禁じたところのは、当時の政府が耕地の形態の改正に意を用いてゐた事情を裏書きしてゐるものである。要するに此所に“丹陽村のこの市松模様を描く島畑の形態は大化の頃、条里制施行と同時に決定されたものである”と結論することができる。此の地方に限らず、畑の多い濃尾平野では、条里制施行時に決定されたと思われる畑地の形態が容易に指摘される。即ち島畑式の小さい畑地は言う迄もなく、畑の大集団にあつても、その田地との境界は条里の方向と一致して、大体東西と南北とにつくられてゐる。

4. 區劃の方法とその意義

此の地方では区劃の大單位である方1町が基準として認められたが、實際にあつては多少の伸びのあつたことが、現状から容易に解る。筆者は大區劃（字名を東寺田と^③いう）をとつて実測してみると次の様になつた。その寸法は周りの道路幅（西辺1尺5寸、北・東・南各辺1間）を除外したものである。即ち北辺が60間+1間1尺5寸、

③ 島畑地方の東半部では、大區劃毎に1つの字名があるが、西半部では多くは南北の2區劃が合して一つの字名をとつてゐる。

東辺が60間+1間5尺、南辺が60間+1間2尺、西辺が60間+3間3尺となつている。この測定値からこの方形の耕地の面積を概算すると、1町2反8畝となる。尙この外に律令時代の尺が今日のそれに比して短かつた分を考慮に入れると、この一区劃即ち東寺田の耕地は当時の寸法では1町3段2畝となる。何れにしても凡そ3段歩の余裕ある大区劃で、畿内地方の田許りの平野の大区劃の取り方（1町2段）よりも若干大きいといわねばならぬ。これは畿内の平野よりも地方的（文化圏の周縁的）な位置のこの地方として、当然の斟酌と言えるであろう。またこれは次に述べることも関連しているかも知れない。

小区劃の方法については、(第2図)のように8分され、しかも夫々異つた面積が与えられているのを見る。畿内の田のみの地域の条里跡では、10分されているのに比べると、この地方の8分は前者よりも土地の生産力が小さいということの考慮というよりも、島畑の存在するための米麦等凡ての農作物の収穫の田地のみの場合よりも、人口の支持力が小さいことに因るものと思われる。即ち水田

第2図 線彩……島畑 實線……畦畔

1段歩が1壮丁の自給しろ

④ べき耕地の面積とすれば、畑地を混えたこの地域では、畑地の含まれる結果として、それ丈けの自給率が低下するから、田地のみの地方の区劃よりも、1小区劃の耕地面積をそれ丈け大きくとらなければならない。この島畑分布地方には、10分した例は一つも存在しないで、皆それよりも大きく割つてあるのはこの理によるものである。

④ 米倉二郎：農村計画としての條里制，地理論叢 第1輯 昭7。

次に注目されることは、この小区劃が何れの他の大区劃にあつても等分されてはいないことである。即ちその幅に広狭があることは、第2図にみる如くである。これは田と畑とを自給率の点から按配して決定されたものではないことは、地籍図の一読からすぐ分る。多くの場合に僅かの地形の差でも、人間はこれを自由に支配し得ず、寧ろ地形に支配されて余儀ない結果となつてゐることの事例を此所にも見出すのである。此の地方では比較的低い地を削つて、より高い土地に土盛りをして、この島畑が造られたわけで、島畑の面積の大小の差は平野の微地形の影響をうけている。今大区劃内を等分すれば、この個々の島畑に小区劃の境界線が通る様に区分される分が多くなるので、島畑が不規則の長裂片に分割されて實際上の不便を来すことになるから、島畑を境界線が通らない様に区分された結果として、第2図にみる様に乾田中に境界が置かれたものと考えられる。従つて大面積の島畑のある箇所の小区劃は、小面積の島畑のある箇所のそれよりも大きくなることになる。依つて「小区劃の耕地の幅に大小を生じた相違は微地形にその根元を置くものである」ことになる。土地の人は島畑が他の耕作者によつて削りとられて小さくなる心配から、周りの田地の所有者と同一の者が耕作する様になつたと云うが、これは實際上の便益から、発生の原因を空想したものにすぎない。現在の土地所有関係はこの小区劃による古くからのそれを、本質的に継承されているものと思われる。

条里設定上の個有の2型と考えられている。「1町ドリ」と「5段切り」の分布を此の地方で探してみると、大和その他の地方に於けると同じく、1町ドリが圧倒的に多く、5段切りは二三の地点にのみ例外的に認められるに過ぎない。そして島畑地方には1町ドリ許りが分布している。島畑地方の畑分布に於て、5段切り型にその中央を区切つた島畑の頻度は僅かに17%の少数あるのみで、これに対して1町の長さにつゞく島畑は50%の多きに達している。中央で切れた島畑の切れ目も、正確に中央にはなくて、個々に齟齬していて左右の隣り合わせた小区劃の同種の切れ目と一直線になつていないことは、第2図にも明らかである。既述の如く耕地（田と畑）の形態が大化の条里施行の頃に造られたものとすれば、この齟齬は後世のものとは考えられない。それに若し大化の最初に5段切りが造られたとすれば、大区劃を単位とする島畑の配

⑤ 樋口好古：尾張御行記、中巻485頁に「三井村ハ……一體地高ナル所故ニ用水カ、リアシ、サレハ地下ヲシタル田ハヨク實ルト也」とある。

列する事実（そしてその後世の変形が考えられないから）は意味を失うのであつて、5段毎に島畑の同方向的配列の形跡が存在していなければならないのに、實際上今日そうしたものは見出されない。従つて此の地方では、大化の条里制施行の頭初から、1町ドリに決定されていたもので、5段切りから1町ドリへと変化したものとは考えられない。米倉^⑥学士は5段切りから1町ドリへと変化したこと、及びその原因として牛耕の利便を考えられた。さて此の地方に古く牛耕があつたか否かは不明であるが、律令期の田令には「每二丁配牛一頭」とあるが、江戸中期頃には、三井重吉村で172戸に馬62頭あつたこと及びそれが末期には5頭に減つていることの記述^⑦があるが、本村に畜耕が盛んであつたことを考える資料はない。丹陽村では島畑地方以外には5段切りを2例見出すのであるが、この型はこの地方では正確に5段ずつに切られて居らず、60間×55間の9分されたもの（森本部落の東方）、60間×95間を12分したもの（同上地方）である。そして9分や12分されるのも決して等分にはなっていない。この2例は何れも殆んど乾田地域であるが、小区劃中に島畑を含むものは、他の小区劃に比して大面積になるように取つてあることは、島畑地方について述べたのと同じ関係になる。水溝は後の例では、東西の両辺に南北に設けられてある。島畑地方の水溝については後述する。更に島畑地方以外の例をあげれば、上述の小区劃の数は大区劃を5～6分したのと（森本部落、畑少し含む乾田地方）、9分したもの（九日市場部落・伝法寺部落、共に全部畑地）とがある。そしてその何れの場合も、分割は不等に行われている。

次に島畑の大区劃内に於ける一定の方向性が、またこの地域の特性の一つを成していることに就いては、屢々上述したところであるが、この特定な個々の方向は何に依つて決まつて来るのであろうか。第3図は岩田利雄氏父子の助力を得て、筆者が測定したものである。これによつてみると、大区劃の北辺の道路を切つて、灌漑水取入口が5ヶ所あり、南辺には3箇の排水口がある。これらは北辺に1本の竹筒のある外は凡て土管である。以上に対して西辺には何等の導水管もなく、東辺にはその南端に近い所に1管があるのみである。即ちこの大区劃内では、北から南へ流水がある訳で、内部の畦畔の切れ目も、南北のものが多くなつてゐる。この区劃内の島畑の南北の配置は、この水の流れに従つてゐることはいうまでもない。この島畑地方には、水溝が

⑥ 米倉二郎：前掲、 ⑦ 樋口好古：前掲。

⑧ 少い。我が条里制にあつては、方1町の四囲に水路をもつのが原則であつたことから

第 3 圖

羽状線内……畑（その他は畑） 圈点……馬鈴薯 細点……油菜
十字点……花大 レ点……葉菜][……導水管 | ……畔切

みると、島畑地方では、實際上灌溉水路を設けることの困難な自然的状態に置かれていたものと見られる。同図に示した水溝も近い頃まで大した実用にならなかった様であり、昭和18年になつてようやく、岩倉町の「井上の杵」が設けられて、木津用水^{コヅ}に連つてからは、大体用を便ずるに到つたものである。尙それにしても不充分である。

⑧ 米倉二郎：前掲。

で、目下その西方、青木川に堰堤を設ける工事が進められているけれども（昭和17年以前にも同じ川からダムによつて給水していた）、青木川は犬山扇状地を流れる自然の流れで、その水源は天然の湧水によつているから、大を期待することは出来難い。現在島畑地方の中央を流れる水路は幅4・5尺あり、中国の阡陌法に於ける逐より大きく、洫より小さく、凡そ溝（幅4尺）に相当することになる。この水溝が何時出来たものであるかは不明である。一方排水も青木川の屈曲を正しくして行われた河川改修により、以前よりはよくなつたという。

5. 耕 地 の 生 産 力

丹陽村の土地の賃貸価格による等級（1～100階級に分ち、番号の若い程低級）^⑨をみると次表のようになって

いる。
この表に依ると田では島畑地方が第1位、畑では多加木が最上位になる。対象地域である島畑地方にあつては、田は最

	田	畑	平均値算出の字の数
島 畑 地 方	86	82	16 (田・畑混在)
同上に接した地方	86	83	20 (田) 20 (畑)
多 加 木	85	84	23 (田) 24 (畑)
ア 音 ヅラ 麓	84	83	16 (田) 16 (畑)
猿 海 道	83	82	9 (田) 8 (畑)

上であるが、畑では最下ということになる。更に米麦の収量について、明治17年の調べがある。この統計では田は米、畑には陸稲を作らないから凡て麦の収量を表わしている。三ツ井が田でも畑でもその一等地の収穫が最高位にある。三ツ井には上述の島畑地方の大部と、島畑地方に南接する畑地が含まれるから、田の統計は島畑地方に相違ないが、畑の方では島畑でなく、恐らくその南部に広く横はる畑地に相当するものであろう。然し最下等地の統計値も全村で三ツ井が第3位であるから、要するに島畑地方は田に於て最上位、畑にあつては中上位という所である。収量に於て最下位でないが、等級では最下であるのは、この島畑地方が何れの集落からも遠距離にあることからの不便が関連しているものと思われる。島畑では畑は田の面より平均1米の高さに盛土されて、周囲に稲田をもっているから吸水が良好である様であるが、土質が粘土混りの壤土であるので、砂質壤土を好む大根作には不向であり、これの生産を以て有

⑨ 土地寶典、愛知県丹羽郡丹陽村の部、昭12製圖。 ⑩ 丹陽村々史、未刊

大 字 名	一 等 地	最 下 等 地
三 ツ 井	2,658石 3,302	1,232石 1,382
重 吉	2,486 2,793	1,550 0,969
平 島	1,905 2,264	0,180 0,732
猿 海 道	1,570 2,275	0,280 1,470
多 加 木	1,946 2,316	0,126 0,576
森 本	2,570 3,130	1,213 1,480
吾 薗	1,678 2,230	0,953 1,180
九 日 市 場	1,550 2,348	0,360 0,401
五 日 市 場	1,510 2,240	0,107 0,344

各欄共上は田，下は畑

名な本村としては、島畑は理想的な耕地ではない。それに上記の農家からの通耕距離が大であるので、一層不利な状態になる。田が良質であるのは理由はよく解らないが、経験者の或者は耕地の保温力の大きいことを述べている。

6. 島畑の増減

島畑の面積は最近漸次減少の一途を辿っている。第2、3図は夫々明治21、昭和26年測図であるが、此れらの地図上で島畑の

全耕地に対する面積比を計算すると、35%——32%——17%ということになる。(明治21) (昭和12) (昭和26)減少の原因としては、保有米の不足と税金捻出などの最近の農家経済の不振にあるということであるが、田が畑よりも勝れている上述のような此の地方では、畑を減らして田を増すことが得策と考えられる。又一面灌漑施設が漸次良くなつたことは畑の稲田化(ii)の前提となつたものと思われる。現在の土地利用は島畑にあつては麦(大・小・裸)→瓜類→根菜・葉菜、田では米作の裏作として春は麦と小量の馬鈴薯、油菜等である。

7. 耕地所有関係

大化の国分田の際の受給状態、即ち大体一つの大区劃を一家で所有する形跡は残っていないが、小区劃を単位(又はその $1/2$)として、土地の売買が行われて来たもので

- ⑪ 三井村の雨乞は古來有名であり、旱天がつづけば本村が代表して各戸から1名づつ壯丁が出揃ひ裸體の行列をつくり、村長らの羽織・袴の正装姿を先頭として、1里余りの一ノ宮眞澄田神社に祈願に出かける。沿道には予め依頼してある村民が桶に水を湛へて待ちうけ、この行列に水を溶せる風が今も行はれている。尾張の中央部でこの村にのみこの風習のあるのは、本村の水に対する關心の大きいことを知りうる。

あることは、現在の所有関係から明らかである。この島畑地方では今次の農地改革の前後の所有地の差は殆んどないといわれて居り、現在の1例を示せば第4図の通りである。即ち小区劃またはその $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$ を夫々別の所有者が占めている。しかも島畑を中心として、その周りの乾田を含めたものをもつ傾向が、此所にも明らかにみられる。

8. 結 言

第4図 線影……島畑 (A~Jの10名の農家より耕作)

我が国に於ける園耕形態の耕作景觀の一つの代表的な例として、この地域をとり上げてみたのである。そしてその發生の当初に溯つてその特性を調べ、それに関連して種々の問題に亘つて述べる事が出来たことを以て、一先づ記録に留めて置こうと考えた。更に律令期以前の地理的狀態がどんなであつたかを知りたいと思う。尙この地域の古来灌漑排水の困難な特性は、此の地域に集落の發生発達をみなかつた理由となり、居住の密な尾張の平野では、一つの著るしく広い田野をなすことは、曾て飛行場敷地の候補地として此所が選定されたことからよく解る。

(名古屋大學環境醫學研究所員)

低濕地帯の地域構造

——淀川右岸の杞柳栽培より見たる——

森 田 敬 一

本稿は淀川右岸低濕地域の杞柳栽培より見たる地域構造に就き研究せるもので、研究對象の市町村は、三島郡富田町、玉島村 (舊溝咋村、舊宮嶋村) 及び茨木市 (舊三島村、舊玉簪村) を中心とする地域である。尙これは、さきに發表せる拙論連根

①

a. The pivotal shopping center in front of the R. R. Station (where the necessities of life are sold).

b. The circumferential shopping thoroughfares (where the necessities of minimum life are sold).

c. The shopping thoroughfares within the 2 km. circle (where expensive articles are sold).

d. The shopping center in the heart of the town (where the most expensive articles are sold).

Monzencho previously mentioned now has but the standing of a shopping thoroughfare where the necessities of minimum life are sold. It is a street having advanced only one step from the time of general dealers. On the other hand, there appeared in front of the R. R. Station a new shopping center depriving Monzencho of the topmost position and becoming a new pivot of the district's life-spheres.

(3.) Conclusion. The fact that Monzencho of Ikegami Honmonji Temple that had been pivotal in Ikegami and its surrounding areas from the Yedo epoch to the latter part of the Meiji period is now transforming into a less important shopping street where the necessities of the newly-rising shopping center that has grown in front of Ikegami R. R. Station. Such a phenomenon will be observed, more or less frequently, in other districts too.

THE LAND-ALLOCATION IN TANYO VILLAGE IN THE PROVINCE OF OWARI

By KANJI KAGAMI

Tanyō Village in the province of Owari is an all but pure farm-village located in the north of Nagoya City at the distance of about eight kilo-

meters from that metropolis. The district abounds in vegetable gardens, across which in many places paddy fields are tilled so that the lands offer an involved view. There is found a distribution of lands which cannot be shown on a map drawn to the scale of one to 25,000. Also there is a peculiar arrangement of tilled lands. Among rice fields vegetable gardens shaped like narrow tablets are so distributed as to make as a whole a beautiful checker.

In this report, Tanyō Village characterized by the above mentioned singular land-allocation is treated as a representative case of farming combined with gardening in our country. By tracing this peculiar land-distribution back to the very beginning, its characteristics are examined in the following order :

1. Topography.
2. Origination of the form of tilled lands.
3. Method of land-division.
4. Producing capability of cultivated lands.
5. Increase and decrease of island-gardens.
6. Ownership of tilled lands.
5. Increase and decrease of island-gardens.
6. Ownership of tilled lands.

Other related matters are discussed too. The author is of the opinion that a clue to the solving of questions as to the geographical condition of our country prior to the period of statutes is obtained in this way. It is made clear that the growth of a village in this region has been a rare occurrence since ancient times because of the difficulties in irrigation and drainage. The land-allocation peculiar to the region is explained briefly. A circumstance such as the existence of this district will be seldom found in other parts of the Owari plain where the population is rather dense.